

カレント・トピックス

武若時一郎

大型自動車工業の前途

一九三〇年の「ロンドン旅客交通法」が、各方面の産業乃至經濟に、如何なる影響を及ぼしたか、は頗る興味のある題目であるが、これはバスの車臺を作る業者の側から見た話。

「合同裝備會社」の社長兼常務取締役リーヴ氏が、昨年十二月の總會で、大型自動車工業の商業的地位について、彼の見解を述べる際に、その表現に頗る苦心の跡が窺はれる。氏曰く「この工業の將來は、多少好轉の兆候はあるが、大して明るくもなし、暗くもない、と白状せざるを得ぬ。一般財界の不況と、一九三〇年の道路運送法が、過去二ヶ年間に於ける大部分の大型自動車製造業者の營業不振の原因をなしてゐるのである」。同法の實施によつて、旅客運送事

業が一つに取り纏められた結果、自然、乗合自動車の過剩を來し、揣摩臆測の果は、もつと制限的な法律が出るかも知れぬといふ恐怖を生んだからである。將來更に法律で制限されることを怖れずに、吾人の事業を發達せしめ得る様にしなければならぬ、と附言してゐる。氏の會社は、氏の言によれば「優秀なる財力」を持つてゐる。販賣高は、一九三二年は一九三一年に比し四割方落ち、一九三三年上半期の利潤は、一九三二年に比し又候五割方下がつた。けれども、能率的な管理、經濟的な生産、及び健實なる販賣によつて、本工業が蒙つた不利な諸要素の最悪の結果を免れたのみならず、まだまだ相當な率の配當を行ひ得るバランス、シートを作成することが出来る、といつてゐる。大分瘦せ我慢の様にも聞えるが、この會社は實際、最近「ロン

「ドン旅客交通局」と契約を締結して、今後十ヶ年間、同局のバスの車臺及び取換用部分品の大部分を納めることになつた點で、その境遇を羨まれてゐるのである。約百マイルに互る市街鐵道を乗合自動車に取り換へるといふ同局の方針が、豫定通りに完成される場合には、勿論、この契約の價額も増加されることになるだらう。現在約三百臺の「ロンドン交通」バスが六汽笛のエンジンを裝備され、又はそれ様としてゐる、といふことは壓搾發火機關の前途を示すものとして、興味のある話である。

道路運送の宣傳

旅客道路運送のため、今年イギリスで、宣傳運動が起されることになつた。その中には、五月六日から十三日までを「全國旅客道路運送期間」とする計畫もあるが、まづ道路運送を擁護する標語の懸賞募集から火蓋を切ることになつてゐる。この運動の發頭人は「株式會社貸切乗合自動車協會」であつて、そこから出した聲明書の中には、鐵道旅

客増加の原因は、主として「聰明に指導された宣傳と怜悯に處理された廣告」に歸し得ることを指摘してゐる。ところが、自動車營業者等は、いまだ管て、廣告に大した考慮を拂つたこともなければ、多くの費用を投じたこともない。イギリスの大衆に、自動車旅行精神、といつた風ものを吹き込むことが出来さへすれば、その御利益は乗合といはず、貸切といはず、すべての自動車營業に普ねく及ぶだらう、といふ意味のこともいつてゐる。そのみならず、かういふ手段によつて、道路運送業者のために、新規の交通を創造することをも念願してゐる。「週間」中は、ロンドンのみならず、地方の大都市において講演會を開き、講師は現在この産業の上に存する困難なる法制上の諸條件を説明し、事業の擴張を制限せんとする現在の政府の方針と、新規施設の提供の趨勢を詳論する計畫になつてゐる。各地方の營業者は、標語その他の廣告事項をデカデカと掲げた乗合自動車を、主要都市から、イギリス中の循環道路に、一定の間隔を置いて、兩方面へ差し立て、宣傳週間中は毎

日ずつと、引つ切りなしに動いてゐる「環」を現出しようといふわけである。また別に車を出して、郊外の町村を抱擁する地方的循環道路を流させることになつてゐる。この運動に要する経費は、營業者各人が五シルリング（比價約二圓五十錢）出し合つてこれを支辨し、また全國六千の自動車營業者は、標語の懸賞募集を廣告するために、所屬自動車四萬六千臺を利用する筈になつてゐる。

世界一の長い橋

世界で一番長い橋が、東アフリカのザンベシ河の下流に架かる。目下、工費百四十三萬四千三百三十七ポンド（比價約一千四百萬圓）をもつて、「中央アフリカ鐵道會社」及び「ザンベシヤ横斷鐵道會社」のために、イギリスの「クリーヴランド橋梁工業株式會社」が工事してゐる。「下ザンベシ橋」が即ちこれである。「下ザンベシ橋」の架設は、輓近海外における最も重要な交通計畫の一である。それが東アフリカの交通問題に及ぼす影響の如何は、姑くこれを措く

としても、その最も著しい特徴を見逃すわけにはゆかない。全長一萬一千六百フィート九インチといふ長さは、世界で最も長い鐵道橋の間に伍して毫も遜色はない。それどころか。橋梁の長さとは、橋梁が連續した河川の上空に架設されてゐる長さ、換言すれば連續した水路の幅員と同一の長さを指すものと限定すれば、正しく世界第一と稱さなければならぬ。この他の、特に長い橋を擧げると

テイ橋（スコットランド）

一〇、五二七フィート

上ソーン橋（インド）

一〇、〇五二フィート

ゴツドヴアリ橋（インド）

九、〇九六フィート

フォース橋（スコットランド）

八、三〇〇フィート

マハナチ橋（インド）

六、九一二フィート

リオ・サラド橋（アルゼンチン）

六、七〇三フィート

ニューヨークの「ヘルゲート橋」は、長さ一萬三千五百五十三フィートと號するから、「下ザンベシ橋」よりも千九百二十フィート（正確にいへば更に三インチ）長いわけだがその大部分、即ち一萬八百十八フィートは陸上に架けられ

たものであつて、残りの二千七百三十五フィートが、三本に分れた支流の上に架つてゐるにすぎない、といふ點でオミットされたものであることを斷つておかねばならぬ。

ロンドン交通局の新法案

イギリスの今期の議會に提案された法案中、交通關係のもものは、財界不況の祟を受けて、一向に振はないが、「ロンドン旅客交通局」が第一回の法案を出してゐるのが、人の目を惹く。

「ロンドン旅客交通局」は、「ロンドン地下鐵道」の停車場改良計畫の方針を繼續し、また市街鐵道を乗合自動車に轉換する重要計畫に手を下さう、といふのが法案の骨子である。工費豫算三八八、五八六ポンドの停車場改良工事の中には、キング、クロス及びムーアゲートの地下鐵停車場にエスカレーター及びその附屬設備を施す經費を含んでゐる。しかし法案中、最も注意を惹く點は、長いマイル數を有する市街鐵道を、無軌道の乗合自動車に取り換へ、尙ほ

それを新しい道路の或るものに設置することである。ウィルウィッチ、エリス、ベクスレー・ヒース及びグロフトフォード間の市街鐵道は取り換の手筈になつてゐるが、その他では、古い「メトロポリタン電氣」「サウス、メトロポリタン電氣」及び「ロンドン合同」の各鐵道の取り換を主とし、かくの如くにして、局の設立以前に「ロンドン合同」がキングストン—ウインブルドン地區において、既に着手してゐた方法を續行する方針である。取換を豫定されてゐる主な路線は、シエファード・ブツシュとアツクスブリッジ間（イーリング經由）ハンマースミスとハウンスロー間及びトウウィツケンハム間、パツデントンとウエンブレ間、及びエツデウエヤ間、ユーストンとエンフィールド間及びフィンチレー間、及び水晶宮とサットン間である。全然新規（市街鐵道のない）の路線の中に、ユーストンとベツドフォード廣場間が這入つてゐるが、この案に對しては既に地方から若干反對が起つてゐるさうである。